

株式会社松鶴園

愛知県西尾市

生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

ポイント

日本の良き文化であるお茶を後世へ残す 全国有数の抹茶の産地「西尾」から世界へ はばたく独自ブランド「松鶴みどり」

- 独自技術を用いた「松鶴みどり」による付加価値向上、ブランド確立に対する取組
- GI登録された「西尾の抹茶」のPR活動による、インバウンド需要取り込みに対する取組
- 熱・光に対する退色に強い独自商品「松鶴みどり」の開発による、独自製品分野確立に対する取組

企業基本情報

所在地	愛知県西尾市上町南荒子 50 番地 2
電話 / FAX	0563-54-3300/0563-54-3332
U R L	http://www.shokakuen.jp
代表者	代表取締役 若杉 秀樹
設立	1956 年
資本金	1,000 万円
従業員数	15 人



会社概要

全国有数の抹茶の産地である「西尾」の地域特性を活かし、食品加工用抹茶の卸売に注力。同社売上の数十%程度を占める独自商品「松鶴みどり」により、競合他社との差別化を図っている。

同製品の開発に成功したことにより「松鶴みどり」ブランドを構築するとともに、商圏を拡大。同製品を使用する企業は大手食品メーカーから個人商店まで幅広い顧客層を保有しており、毎期安定した収益を上げる企業である。



会社施設

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

商圏の拡大、ブランド力の向上による付加価値の向上の取組

食品加工用抹茶が熱や光に対して、退色し、日持ちしないという課題があったものを、熱・光に対する退色に強い「松鶴みどり」という独自商品の開発に成功。この製品の開発により、同社の卸売上高は伸長しており、同社の売上比率の数十%程度を占めるまでになっている。この独自製品で他社との差別化は図られている。また国際認証の標準基準となりつつある FSSC22000 を取得予定である。現在、取引先は 5,000 社を数え、「松鶴みどり」ブランドの構築と商圏の拡大に寄与している。



松鶴みどり 抹茶ペースト写真

「西尾の抹茶」の PR 活動及びインバウンド効果

同社代表は組合法人西尾茶協同組合の理事を務め、全国各地へ「西尾の抹茶」の PR 活動を精力的に行い、愛知県からの引き合いもある。認知度向上に向けた取組として、地理的表示保護制度 (GI) の活用を軸に組織的な消費宣伝を国内外 (ミラノ万博など) で行い、茶産業の活性化を図っている。また、世界各地へ PR し、タイとマレーシアから役人や観光会社を招き、抹茶体験を同社で行うなど、一定のインバウンド効果は認められている。



展示会展風景

「松鶴みどり」の独自製品と優位性

一般的な食品加工用抹茶は菓子などの食品に使用される場合、その焼成や殺菌でかけられる熱や、店頭販売などの際の光などで抹茶の緑色が褐変してしまう。従来はクロレラや着色料などの抹茶の緑色を補った食品が多かったが、その効果は限定的で抹茶の風味も損なわれる。しかし同社の「松鶴みどり」は添加物などを一切加えずに抹茶本来の風味と色彩を損なわないようにできる商品であり、同社が持つ独自製法である。その結果、焼き菓子などを製造するメーカーには必要不可欠な商品として、業界には幅広く認知されており、高い競争力を有している。



松鶴みどりシリーズ